

## 令和元年度第2回我孫子市まち・ひと・しごと創生有識者会議（B班）

### 会議録

1. 日 時 令和元年10月1日（火） 午前10時～正午
2. 会 場 我孫子市役所 議会棟1階 A・B会議室
3. 出席委員 林委員、坂巻委員、山下委員
4. 議 題
  1. 我孫子市まち・ひと・しごと創生総合戦略における平成30年度施策評価について
  2. 我孫子市まち・ひと・しごと創生総合戦略の延長について
    - (1) 重要業績評価指標（KPI）の目標値設定および変更
      - ・我孫子市まち・ひと・しごと創生総合戦略 施策一覧【資料1】
    - (2) 基本目標の目標値設定および変更
      - ・我孫子市まち・ひと・しごと創生総合戦略 基本目標一覧【資料2】
  3. その他

○林委員長 それでは、分科会を始めさせていただきたいと思います。

きょう、我孫子市さんのほうから審議してほしいというのは、今お話にあったとおり、2点ありまして、前回の資料4の有識者評価のところの続きをできるだけ進めていくというのが一点ございます。もう一点としましては、計画を2年延長するという方針のもとで、令和3年基準にしたときの目標値についての審議という2つについてを皆さんときょうは議論させていただければと思います。

前段の目標としては、施策評価を1時間ぐらいやって、残り1時間で先ほどの延長部分のお話をするということですので、大体11時を目途に、総合戦略の施策評価、現行の評価について進められるところまで進めるということで進めさせていただければと思います。

前回、決して全部できているわけではなくて、私たちの目標のところでございますと、たしか、施策評価表という前回の資料4の9ページまでは皆さんのご意見をいただいていたかと思っておりますので、きょうは10ページから進めさせていただければと思います。

10ページにおきましては、総合戦略の基本的方向の(2)、「子育て世帯への支援の充実」

というところから、皆さんのご意見をいただきながら、委員の有識者評価の一番右の欄、1、2、3いずれがよろしいかというところを検討してまいりたいと思います。

きょうは残念ながら委員が3人しかいないので、ざっくばらんにご意見をいただければと思っております。

子育てのところをするのに専門の山岸さんがいらっしゃらないので難しいかもしれませんが、進めさせていただければと思います。

まず、(2)の「子育て世帯の支援の充実」ということで、こちらは大きく言うと2つの施策がありまして、「子育て支援策の充実」と「仕事と子育ての両立支援」が2つの施策としてあります。それぞれに対する達成状況についてはご覧になっていただいているところになります。達成率と達成状況が最新の数値における評価結果ということになってございます。

数値的にざっと見てみますと、目立つところといたしましては、事業名の34番の達成率が目標の300%になっているというのがプラスの方向とはいえ目立つ数値になっているかと思います。また、次のページになりますけれども、数値的に目立つところとしては、38番の「病児・病後児保育の年間延べ利用人数」が、さっきはプラス300でしたけれども、ここはマイナス253になっている。この2つが若干目につくかなというところでございます。

評価といっても、いきなりはできませんので、委員の皆様で、事務局さんも近くにいらっしゃいますので、少し質疑から始めさせていただいて、何かお聞きになりたい点があれば、ざっくばらんにお聞きになっていただければと思います。何か確認したいことや質問はございますでしょうか。

**○山下委員** 前回、いろんな事業、施策について、どれだけ達成しているという話で、それが全体としてどうかというふうなことを最終的に評価しているのだけど、ある程度客観的にするために点数化するとか、そういうふうなお話をさせていただいたような気もするのですが、その辺は何かお考えになられているのですか。

**○事務局** 点数化というのはなかなか難しく、今、その点数化という意味では、達成率のところの基準値を26年度にして、目標値を31年度に設定している中でも、31年度に向けてどれだけパーセンテージというところで、純粋な数字の達成状況をそこに出しているの、これ以上というとなかなか難しいかなというところなんです。

**○山下委員** 例えば、事業種が10個あったとして……。

**○事務局** いくつのうちいくつというところですね。

○**山下委員** そうというような単純な。

○**事務局** あとは、それぞれによって事業の数が違うので……。

○**山下委員** 同列には見られないですね。

○**事務局** そうですね。そこが概ね3分の2になっていくのか。あとは、全体的に、これから後半戦に入ると、全ての事業でそれほど大きく達成状況にはならないというところも出てくるかと思うので、そこですかね。概ねであれば、やっぱり、半数を超える3分の2ぐらいが妥当かなとは考えていますけれども、事業数がそれぞれ違うので……。

○**山下委員** ウェートが違うということですね。

○**事務局** そうですね。

○**山下委員** ウェートが違うとして、我々にはそのウェートというのがわかるんですか。

○**事務局** 事業の施策に対してぶら下がっている事業の本数が違うので。

○**事務局** 数がということ。

○**事務局** そうです。なので、いくつということはなかなか決められないので、その方向性に沿ってもし事業をすると、3分の2以上が達成であれば達成とか、そういうことはできるかなとは思いますが。

○**林委員長** 施策によって、ここの「子育て支援策の充実」は割とぶら下がっているほうですけど、後ろのほうに来ると、例えば「効率的な行財政運営」というと、たしか2つしかぶら下がっていないので、確かに、その辺のでこぼこ感はありそうですね。本当は、総括的に、おっしゃられるとおり、大体何分の1程度だから、ここはこれでいいだろうというところが一番やりやすいとは思いますが。

基準は難しいとは思いますが、こちらのほうの「子育て支援策の充実」というと、特に大きい数字としては、なぜ300%かというところはありませんけれども、ほかのところは、総括的に見て、こちらのほうについては大きい問題点は数字上からは見えないという形ですかね。

○**事務局** 昨年は、多分、3つぐらいのうち2つの遅延は、やはり、そこは概ね達成でもほぼ順調にはできないよねというご判断をいただいている中から考えると、概ね3分の2以上の事業が達成であればほぼ順調以上にはしていただいているかなという感触もありますので。ただ、今言ったように、事業の本数が非常に少ないと、なかなかそこのご判断はあるかなと思います。

なので、目安としては、事業数の3分の2程度が順調や達成であるということをご確

認していただいた上で、遅延のものについて、なぜ遅延だったのかという理由のところをご確認いただいた上で、ほぼ順調か順調まではいかないかなというご判断をいただくのがいいのかなと思っています。

**○林委員長** わかりました。

では、一本ずつ上から見ていくと、31が遅延になっていまして、33が遅延、34が大幅な目標達成というのがこの施策のくくりでは出てきているところですけども、この300%というのは将来的にはまた目標値を見直していくところになるのですか。

**○事務局** これは取り組み方向が変わっているということで大きく数が増えているんです。お父さん対象のイベントのカウントの仕方が若干変わったというところで30年度は回数が増えているということと、あとは日ごろからお父さんたちが土曜日に参加していただける数が結構増えているので、そこに向けて小さなイベントをぶつけているというところで回数が多くなっています。多分そこで目標値がかなり大幅に上がっているかなというところなんです。

ただ、31年度は、そもそも、このすくすく広場やにこにこ広場の開室日を少なくしているので、多分、来年は低く出てくるのかなという予想はしています。

実際に働いている方たちは保育士の資格を持っている方たちなのですが、今、待機児童ゼロの問題で、他市町村でも、保育園の仕事が、昔みたいになり手がいないではなくて、なってくれる人を探している状況なので、何もここで正規の職員ではない身分で働かなくても、きちんと職を探せる状況が近隣市にたくさんあるので、それで、みんな保育士さんが保育園に流れているという状況があって、人数が確保できないということがあって、曜日は定かではないのですが、閉室する曜日を増やしているという現状があります。

**○林委員長** 保育士の資格を持っている人が教室をやるということでやっているということですか。

**○事務局** そうですね。基本的に、ここは小さいお子さんをお預かりしているので、免許がない方はお子さんにさわれないので。

**○林委員長** なるほど。そういう影響があるわけですね。

**○事務局** そうですね。

**○林委員長** じゃあ、基準となる目標値をいじるというよりも、どっちかというところ、その時々アウトプットっぽいところですから、目標値は考えたほうがいいのかもしれませんが、それほど大きい問題があるという形ではないですね。

**○事務局** そうですね。実情に合わせて、今来ている方のニーズを捉えて開室しているという

ところなので。

でも、以前より、お父さんの参加率は非常に増えているという状況は確認しているので、何でお父さん対象のイベントを開催しているのかという意味では、大きな目標でいくと達成はできているのかなとは思いますが。

○林委員長 啓発が進んでいるということですね。

○事務局 そうですね。お父さんに一緒に子育てに参加してもらうために始めている事業なので、そういう意味では達成はできているかなと思います。

○林委員長 逆に、例えば遅延のところで31とか33とありますが、33の0%というのは……。

○事務局 ファミリーサポートは、多分、提供する会員さんの数が増えないんです。

○林委員長 横ばい、現状維持という感じなんですか。

○事務局 ほとんど増えていかない。

○事務局 前年度から見ると減っていますけれども、基準年度の平成26年度とちょうど同じ数字になってしまったというところですね。

○林委員長 ほぼ同じだからということですね。

○事務局 なので、昨年度は逆に200%以上だったと思いますけれども。

○事務局 昔から、提供会員さんが伸びていかないのは、いずれの年も課題ではあります。

○林委員長 ここに書いてありますものね。やっていなかった人が退会したということで、さらにまた提供会員数自体が減っていくということですね。

○事務局 一緒に見ていったほうがいいですか。延長の方は。

○事務局 これはまた後でざっと流そうかと。そのとき、多分、そっちを参考にするのだろうけど。これをまず終わらせて完成させて。前半戦はもう終わっちゃっているから。

○事務局 戻ればいいのかなど思ったんですけど。

○林委員長 この施策についてお二方から確認したいことはありますか。

○坂巻委員 33番のファミサポの委託事業者の変更というのは、今はどちらになっていますか。

○事務局 かわっていないと思います。もう一度確認はしますが、かわったという話は聞いていないので。今、聞いてしまいますか。

○林委員長 今のは今後の改善のところの話ですかね。

(事務局が電話で問い合わせ)

- 坂巻委員** 事業者がかわっているということは、真っさらにしてもう一回登録し直しとか、そのまま継続して会員のままとか、どのようになっているんですかね。
- 林委員長** 事業者がかわると、もしかすると、さらに何かあるかもしれないですね。
- 坂巻委員** 目標値が難しくなりますよね。
- 林委員長** 関係性が変わって、「やっぱりやめた」と言う人が出てくるかもしれないです。
- 事務局** 30年度についてはかわっていないので、今年度から。
- 林委員長** もしかすると、来年から、そういう意味での数字の動きがあるかもしれないということですかね。
- 坂巻委員** 30年度については問題ないのであれば。
- 事務局** あとは、子供の人口が減っているという中でというのはあるとは思いますが。
- 坂巻委員** 出生数も700台になってしまっているの、どんどん減る一方なので、その辺は目標値も変えていかないと。
- 事務局** とはいっても、200人ぐらいなのでというところはあるとは思いますが。
- 坂巻委員** 幼稚園とか保育園とかこども園で賄えない休日とか、そういうところは使っている方も多いです。どうしても仕事があるということで利用されている方も多いので。
- 林委員長** 利用範囲を拡大したりはするんですね。これを見ると「18歳までに拡大する」と書いてありますから、実際、18歳まで大丈夫になったということですね。
- 坂巻委員** でも、難しいですよ、対応するほうも。
- 林委員長** 幼稚園が中心で、小学校がちょぼちょぼぐらいかなという感じのイメージだったんですけど。
- 事務局** 現実としてはそうなのだろうとは思いますが、なかなか、来られてもというのはあると思います。
- 林委員長** 逆に、手伝ってという感じですよ、18ぐらいだと。ボランティアじゃないですけど。
- 事務局** すいません、訂正します。プロポーザルで印西など近隣市でもファミリーサポート事業をやっているワーカーズコープというかなり大手が入ってきたそうです。ほかでもやっているの、事業としては安定供給ができるのではないかとこのころで選ばれたということでした。
- 山下委員** 指定管理か何かですか。
- 事務局** 指定管理ではないです。委託です。

○林委員長 コーディネートしたりするということですか。

○事務局 そうです。

○林委員長 各家庭で預かるわけですね。どこかの施設で集合的に預かるわけではなくて。

○事務局 そうです。

○山下委員 もともと30年度までの契約だったのですか。

○事務局 30年度まででした。以前の事業者さんが、我孫子市でやっている提案型の公共サービス、自分たちでこんなことをできますよというのを提案して、その事業者と1者だけの契約を3年間できるというルールのもとでやっていたのですが、それ以降、どこか見つかるかなというところはやっていたのですが、新たに近隣市でやっているところが手を挙げてくれたということで、プロポーザル方式で競争したところ、新しいところが落とされたということでした。

○林委員長 では、この施策については、とりあえず一旦閉じまして、次に、「仕事と子育ての両立支援」というところを見ていきたいと思いますが、こちらについては11ページになります。先ほどのものとこちらのもので総合戦略の基本的方向の評価をしていくという事業の対象範囲になっています。

これを見ていただくと、38番のところが遅延になっている。ほかは一応目標値達成という状況になっています。

38番は、たしか毎年話題には出ているところでありますけれども、30年度実績値が250で、こういう数字になったということですね。

○事務局 若干ではありますが利用者数が落ちているので、達成率がマイナスになっています。

○山下委員 それを必要とする人が減ってきたということではないんですか。

○事務局 それもありますし、あとは、治らなかつたらどうしようといって予約をしていたのに、やっぱり、お父さん、お母さんが見てくれるとか、預けられる先ができたとか、そういう土壇場でキャンセルをする方も非常に多かったと聞いているので、そのルールを変えて、よりいろんな人が使いやすいようにしてはいるのでしょうか。

あとは、おっしゃっているように子供の数が減っているんで、当然、総数も減ってくるのは今後もあると思います。

○坂巻委員 現場では保護者の方も休みやすくなってきているのはあるんですよ。働き方改革というか。そうすると、社会の仕組みの関係になってしまいますけど、子供が病気なのに会社に行くというのは、本来であれば親が見るのがいいので、そういうことでも減ってきてい

るのではないかと思います。

○事務局 それで減るのだったら、それにこしたことはない。

○林委員長 確かに、親が見られれば一番いいですからね。

○坂巻委員 あとは場所ですね。

○事務局 使いやすさ、使いづらさ。

○坂巻委員 車がある方は平和台とかいろいろ行くかもしれないですけども、ない方もいらっしゃるの、自転車に病児を乗せて雨の中に行くのかということ、まず行かない。

○事務局 確かに。

○山下委員 考えると、使える人の母数がそもそも少ないかもしれない。

○坂巻委員 ひとり親じゃなければ、どちらかが休む。相談しながら順番で休んだりしているのが現実だと思いますけど。

○山下委員 待機児童みたいに、これだけニーズがあるけれども、積み残しがこれだけあるということではなくて、単純にそういう施設を利用した人の人数という話ですよ。

○事務局 そうです。

○山下委員 実際のところ、こういう制度を利用したいけれども、なかなかそれができなかったという割合はわかりますか。

○事務局 それはわかります。今まで、数年そういうことが課題で、この会議で提案をして、1年目は、それこそ保育士さんが実は雇っていませんでしたとか、あとは、先ほど申し上げたように、利用の仕方が結構ルーズな方が多くて、そういうところは見直しをしないといけないよねという提言を毎年させていただいている中では、見直しは結構してもらっている状況です。ただ、若干、そうはいつでも、利用総数が伸びてこないの、こういう結果にはなっていますが、担当としても、きちっと工夫をしているところは工夫をしているという状況は聞いています。

○林委員長 この事業自体、毎年話題になって、今、所長さんがおっしゃられたとおり、当然、使ったという人数は母数が減ればどんどん減っていきますから、人数に対してどれだけカバーできるか、そういう指標みたいなものを。断っているのが多いと、それは増やさなきゃという話になりますし、そういうカバー率みたいにできないかというのは、確かに前々から出ているところです。指標設定で。100人来たけど、30人しかというのがわかれば、増やさなきゃという話になるでしょうし。今のところ、そういういろんな提案はさせていただいている事業でもあります。

**○事務局** 多分、子供の総数自体が年々減っているんで、母数は減ってくると思います。

**○山下委員** だから、そういう状況を踏まえて、この遅延を課題視する必要はないということなのだろうと思うんですね。要するに、どれだけニーズに応えられているかどうかということが大事なのだという気がします。

似たような話で、さっきの話に戻ってしまうのですが、31に「子ども総合相談全相談件数のうち終結した割合」とありますけど、これは、ずっと上がって行って100%に上がるわけではないですよ。

**○事務局** そうですね。

**○山下委員** どんどん新しい相談が出てきて、そのうちどれだけ終結したかという話になるので、当然、相談件数が増えれば下がってくるし、相談件数が少なければ今あるものを解決していけば上がっていくという話になるので。だから、このパーセンテージを上げることがこの施策の評価として本当に妥当なのかどうかという感じがちょっとしますよね。

**○事務局** それは最初のころにここでも議論になって、所管のほうにも確認はしてきたのですが、担当としては、やっぱり、終結したものが多くというところを目指して仕事をしているというところがあるので、指標としてはこれを挙げていきたい。

**○山下委員** 指標としては挙げるのしょうけれども、その指標の捉え方がどうなんですかね。

**○事務局** なので、次のときにはもうちょっと考えたほうがいいかなというところもあるのですが。

**○山下委員** これも遅延ということはあるんですが、ある意味、相談の件数が増えてくるといえば、それなりに利用が増えているという形で周知されていて、そういう指標もあるのかなという気はしますが、解決云々というのは、一つ一つ、難しい家庭とか、それによるじゃないですか。

**○事務局** 難しいですね。

**○山下委員** 長くかかるものもあれば、単純にさっと終わっちゃうものもあったりするし、だから、終結率が遅延というのは、それほど課題視する必要はないと思います。

**○事務局** 実情を確認すると、一つの要因で上がってきている子供に対しても、いろいろ調べていくと、その他の要因がたくさん複雑に絡み合っていて、いろいろな機関と連携しながらやっていく、さらには親支援もやっていくというところでやっていく中では、やはり1年ではなかなか終結していかないものが増えているというお話も聞いています。

終結させることが最大の目標ではあると思いますが、市として、いろんな関係機関と連携

して支援を続けていくということも一つ大きな成果ではあると思うので。

終結したものがまた復活したものとか、いろいろこれまでも経過を見てきてはいますけれども。

**○林委員長** そうでしょうね。小学校のときに不登校になると、中学、高校までずっと引きずるという支援の難しさがある中で、指標って一体何なのだろうというお話を前にしましたよね。

難しいですよ。雑談ですけど、この指標を議員がぱっと見て、遅延というと「これは何ごとか」と言われるけど、よく確認して話してみると「こういうことだから仕方がないんです」という話で、なかなか市民の方にも理解が得られにくい指標っぽいところもいくつかあるので、その辺は難しいですね。話を聞くとわかるんですけど、ぱっと見で遅延というと、「こんなに困っている子供がいるのに、遅延って何ごと」みたいな話というような誤解があるところは困りますよね。

雑談っぽくなってしまいますけど、それにしてもこのカテゴリーは、おっしゃられたとおり遅延だから大問題が何か伏在するかということ、そうでもない。むしろ、その指標の捉え方と指標自体の考え方、あるいは母数の問題という部分のどうにもできない社会要因みたいなものが結構きいているものですね。

そういった状況を踏まえつつ、遅延の数はこれだけの数があるわけですけども、こちらのカテゴリー、いかがでしょうか。なかなか、ここでは順調とは言えないと思いますけれども、1か2というと2ということでしょうか。2ということにさせていただきたいと思えます。

次は1 2ページになります。1 2ページは、「安心して学べる教育環境づくり」ということで、どちらかというと学校教育とか子供の発達支援のようなところが出てきておりまして、「療育・教育支援の充実と支援体制の強化」という施策と1 3ページが「魅力と特色のある学校づくりの推進」という2つの施策についての意見を集約するということになります。

指標的に遅延と言われているのは、中身についてはこれからまた見たいと思いますけれども、一応、遅延は3 9番と4 2番と、次のページでいくと4 3のカリキュラム関係の3つが出てきているというところになります。

では、まず3 9番から確認をしていくということでもよろしいですか。

3 0年度実績値が7 4 0ということになっていまして、マイナス1 3 5%という数字になっております。ただ、事業評価のところに書かれていますけれども、出生数の減少によって

支援件数自体が減っていますけれども、出生数に対する支援割合は約13%と変化がないという数字のマジックみたいな結論が書かれているところでもあります。ぱっと見、135というすごいマイナスじゃないかという感じがしますが、内訳をよく読んでみるとこういうことだというふうに書かれています。

ここに限らず、ご意見があればお話いただければと思いますけれども。

○**山下委員** さっきと同じですね。母数が減ってくれば、当然、減るので。

○**林委員長** 当然、支援件数自体は減っていくということになります。

○**山下委員** 割合的に変化がないということであれば、マイナスということはないでしょうね。

○**林委員長** ですので、実質的には、いわゆる事業評価で見ていくときに、これは大変なことなんじゃないかということではどうもなさそうな感じがしますね。事業の一つということになろうかと思います。

○**坂巻委員** センターのほうと園のほうとの連携は本当によくされていて、いつも巡回指導で指導員の方が園のほうに来られるんですよ。こちらでも、発達のおくれの方とか、個人差があるので、それがゆっくりの人と早い人がいるだけなので、それが個性なんですけど、もちろん、その指導を保育教諭のほうにもしていただけるような形をとっているんで、日々それが質の向上にもなったのは、多分、現場では多分助かっていると思います。巡回指導をしていただいているので。

○**林委員長** 例えば、坂巻さんのところでそういう指導を受けるみたいな話の中で、もう少しこういうことをしていただければという部分の改善はあたりしますか。

○**坂巻委員** センターに行かれる家庭は、子供の理解があるというか、それを認めたくない家庭も多いですね。自分の子はそうじゃないみたいな。その辺の持っていく方の工夫というか。もちろん、園からもほかの保健センターからも連携をして早目にセンターのほうに行ってもらって。もちろん、個々でセンターのほうで体験するのと集団行動の中で体験するのではまた違うので、センターに通いながらまた園のほうに来て集団の中での生活をするという、両方併用していくやり方がいいので、今のまま進めていただければ特に問題はないかと思います。数値はマイナスが出てしまっていますが、評価的にはよくやられているのかなと思います。

○**林委員長** ありがとうございます。

42番についても見ていただくとマイナス25%という感じになっていますけれども、事業評価を見ていただくと、家庭の協力が得られないとか、若干の出現率の低下につながるよ

うなところとしてそういう問題もあると指摘されているところではあります。遅延という形ですけれども。

**○山下委員** 基準値の26年度のときには、心の教室相談員の配置はされていなかった。

**○事務局** いや、います。

**○山下委員** とすると、要するに、基準値としては既にそういったものやっていて、それを1.2に下げるとするのは何を以て下げようとしたのですか。

**○事務局** 展開ですね。ただ、その展開がなかなかできておらず、ここ数年、下がってきてはいないんですね。逆に上がっている状況が増えていて、昨年の有識者会議の最後の市長懇談のときにも、そこに対してご意見をいただく中で、市長からは、その内容を以て、今、各所管に指示がおりていて、出現率をどうやって減らしていくのか、市長部局と教育委員会部局でもう一度課題を整理した上で対応しなさいということをやっており、やっとここで体制のほうが変わりましたのでスタート地点に立てたかなというところですよ。

内容を見ていくと、小学生のときに不登校だった子が中学生になって学校に行ける率は非常に少ない。さらには、働く保護者の方が増えていて、特にお母さんが働いているお家で子供が学校に出る時間より勤務に出る時間のほうが早い方については、残されたお子さんは誰も起こしてくれないので、それが学校に行かなくなる一歩かなというところが少しずつ見えてきています。これからは、そういうところを大学と連携して分析した上で、今、市内で子ども食堂とか学習支援とかそういう事業を展開されているNPOさんや民間事業者さんも増えているので、そういうところと連携をして、まず子供たちが一歩外に出るところの支援からもう少し深く入っていけるかなというところのことしから踏み出せるところまでは来しました。

**○事務局** 不登校の原因として、小学校から中学校に上がるときの不安が一つ原因として考えられていて、ちょうど小中一貫とか交流みたいなものを進めているところだったので、そういう意味で少し減るだろうというような考えもありましたけれども、実際は減っていないので、どうもそれは原因として大きいものではないというようなところもわかってきました。

**○山下委員** 見込みとして想定していたものと原因が違ったということですか。

**○事務局** そうですね。また別のアプローチを考えていかないといけないというところですよ。

**○山下委員** 今、方向転換をしたところ。

**○事務局** そうですね。昔は中1ギャップが大きな原因ではないかと考えていたのですが、どうもそうではないというところが、経年変化と今の家庭の実情を見ていくとようやくわかっ

てきたというところでは。

実は、中1になってからの出現率より、少したつてからの不登校の出現率のほうが大きくなるのか、あとは、継続でずっと出てこられない子が多いとか、そういうところが少しずつ見えてきました。でも、それも、ここの会議の場でいろいろ提言をいただいていく中で、ここは解決しなきゃいけない大きな課題だということをも市でも捉えて、それに取り組んでいくという状況がありますので、皆さんに率直なご意見をいただいて、ここはどうにかしなきゃいけないのではないかとということであれば、そこはきちんと対応したいと思うので。

**○山下委員** 社会として、地域として、大きな損失ですよ。結局、そういう人が社会に出られなくなってしまうと、ずっとつながっていつてしまうじゃないですか。

**○事務局** そのとおりです。

**○山下委員** 確かにこれは大きな問題で、減らしていくという指標のKPIの捉え方としてはいいと思うんですよ。それが実現できていないというのは当初の見込みが違っていたという部分があって、もともと1.2というのは相当厳しい数字だったのかもしれないね。

**○事務局** 目標が高かったですね。コンマ1って結構高いので。

**○山下委員** 全国的にこの出現率がどれくらいだというのは、ある程度わかっているのですか。

**○事務局** 前に聞いたのだけど、でも、やっぱり下がってはいないですね。下がる傾向にはない。

**○山下委員** 我孫子市さんは平均と比べてどうですか。

**○事務局** 確認します。全国平均と比べてですね。

**○山下委員** もともといいのをさらに上げていくのはすごく大変じゃないですか。私、別の市のそういった審議会の委員もやらせていただいている、満足率というのがあるんですよ。もともと非常に高いんですよ。全国レベルの住みたいまちランキングでも挙がってくるようなところで、それをさらに上げようとするのだけど、やっぱり難しいです。千葉県全体で、県内に住みたいとか満足度とかいったら、もっともっと低いんですね。千葉県でさえそういう状況の中で、さらに上げていくという、それで達成できないというふうな話になってくると、やっぱり、それはもともと厳しい部分もあるので、この不登校の出現率は、我孫子市さんのこれまでのいろいろな取り組みの中で全国平均的に非常に高いものを持っているのであれば、このレベルで維持していけるということでは本当は十分なんです。平均よりも高いのであれば、それをさらに上げていくというのは……、ゼロになることは絶対ないわけですし。

**○事務局** これは難しいです。対外的には、当然、下げていくとか上げていくという目標で設

定しなければいけないとは思いますが、実際には維持していただくだけでも大変で、おっしゃるとおりです。

**○山下委員** だから、そういう場合は、要するに、全国的に下回っているのであれば、それは上げていきたいと思いますというふうな目標なのでしょうけど、既に全国レベルまで高いところにあるのであれば、それを維持していく、下回らないということを目指したっていいのだと私は思います。

**○事務局** ただ、やっぱり、まだやれていることは少ないという認識はしているので、そこはまだまだ努力できる場所はあると思います。

**○山下委員** 姿勢としてはそのとおりなのだと思いますけど、客観的な指標として、そういうふうに評価されてしまうわけじゃないですか。

これの指標に限らず、全般的に、よくできている部分について、さらに上げていくことができないとマイナス評価になるのか、現実的に、全国的に見てもいいレベルであるものはそれを維持していけばいいと考えるのかということ、評価が違ってきますよね。

**○事務局** ネットで確認すると、小学生では0.54、中学校では3.25。うちも中学校のほうが圧倒的に多いのですが、小学生は184人に1人に対して中学校は30人に1人というデータです。

**○山下委員** なるほど。そうすると、これは小中学校の合計だから、同じにレベルを合わせないと全国との比較は出てこないんじゃないですか。

**○事務局** 右側にありますね。

**○事務局** 30年は、0.57が小学生で、中学生が3.79なので、高いですね。

**○山下委員** だから、そういうところと見比べた上で評価して。

**○坂巻委員** 首都圏とか。

**○事務局** 全国だと伸びてはいますね。

あとは、今、うちのほうも入っているいろいろ調整をしながら話していく中では、一番大きく変わった環境が家でスマホとゲームですね。これがあることによって家にいることが苦痛ではないというところが、外に出たがらない、出たくない大きな要因につながっているというのは非常に大きな影響です。外に出たら楽しいことがあるというところがなかなか見出せない。家にいてそれをやっていけば、それがすごく楽しい世界になっているので、そのところを。

**○坂巻委員** それはそうだね。今、チャットとかいろんなもので友達と話せるわけですから

ね。eスポーツをやりながら。

**○事務局** 社会の環境が変わっているというのは非常に大きく影響しているかなと思います。

そうは言っても、全国平均より高いことが今わかりましたので、ここは何としても取り組まなきゃいけないところですね。

**○山下委員** そうすると、ここについては、やっぱり遅延という部分はあるのかなという感じですね。

**○林委員長** ちょっと重みを持って捉えなければいけない数字ということですか。

**○事務局** 全児童生徒が減っている中でも不登校の率は全国的に上がって、5年連続で上がっています。なので、子供が少なくなったからといって少なくなっているものでもないということもわかるので、ここはさらにうちのほうでも取り組みをしなくてはいけないですね。

最近問題になっているのがニートであったり、お家から出ない方の高齢化で、親が亡くなってから、実はお家にひきこもりの方がいて、それが今になって発見されて生活保護になっているという状況がここ数年増えていますので、そういうところを未然にいち早く防いでいくということでも一番大事な事業かなと思いますので。

**○山下委員** この人数の捉え方というのは全国的に決まりがあるのか、市町村によるのか。

**○事務局** 30日以上お休みした子をカウントするという一定のルールがありますので、これは30日以上の子ですけど、それ以下の子もたくさんいるという現状もあります。1日出てきて1週間来ないとか、そういう子はカウントされません。

**○林委員長** 連続30日ですものね。

**○事務局** そうですね。ですので、これ以上いるという認識はしています。当然、その分析をしたら、ここでまたご報告したいと思います。これは大きな課題ですね。

**○林委員長** では、13ページのほうに進ませていただいて、こちらのほうを見ていただきますと、ここは3本という形になっていますけれども、1本の43番が遅延という形になっていまして、44が達成で、45が順調という形になってございます。「小中一貫共通カリキュラムの実施率」が75%で遅延という形になっています。

**○事務局** 32年からは全校で全てのカリキュラムが実施されるというところを目指してやってきてはいるのですが、見ていただくと、多分、大規模な学校があるところほど一気にはいくつもできないかなという状況があります。

**○山下委員** 30年度で75ですよ。ずっと上がってきているじゃないですか。目標値は31年度で100%ですよ。

○事務局 はい。

○山下委員 その見込みとしてはどうですか。

○事務局 達成できています。31年度中に全ての中学校区にiPadの設置が完了しますの  
で、それとともに完了です。

○山下委員 そうすると、何年か計画の中で達成するという話で、これは遅延ですか、それと  
も順調ですか。

○事務局 これは年度できっちり割っているだけなので、100%を5年で割っているだけの  
数字なので、見ると若干遅延ではありますけれども、それほどおこなっているという感触では  
ありません。

○山下委員 5年間でということですね。

○事務局 はい。単純に目標値を5年間で割って達成率を計算しているのです。

○山下委員 そうすると、30年度であれば80%までということですね。

○事務局 そうですね。

○山下委員 そういう意味での遅延ですか。

○事務局 はい。ICTのほうがそれほど進んでいかなかったというところがあって、なか  
か教員の先生だけだと、技術的に使いこなせる方が皆さんいらっしゃるわけではないので、  
iPadを配置するとともに、それ専用の教員の方を別途配置しているので、その方たちの  
人材を探すというところとあとそこを整備するというところで若干のおくれはありますが、  
基本的には全て終わりましたので、遅延とはいえ、ほぼほぼ順調ではあるかと思います。

○林委員長 そうすると、さっきみたいな問題のある遅延ではないと考えられるということ  
ですかね。

○山下委員 これが30年度実績で3割とか4割だったら、それはちょっとあれでしょうけど、  
8割のところを75%で30年度は確実にいけそうだということであれば、そんなに問題視  
する話ではないですね。

○林委員長 そうですね。

○事務局 あともう2つ。47までです。

○林委員長 あと2つあります。これを忘れていました。「地域で子どもを支える体制の充実」  
というのが最後に2本ありまして、これですと47のところマイナス158%という形に  
なっていて、「学校への支援ボランティアに参加した延べ人数」にマイナスが立っている  
という形になります。

○事務局 前回、資料をお配りしていると思いますけれども。

○林委員長 いただきましたよね。

○林委員長 平成30年度は延べ人数の一覧をいただいていたよね。

○事務局 はい。

○山下委員 27年度は大きく上回ったんだね。4万6,000。

○事務局 27年度は、たしか、いろんなやつを入れるようにしてカウント数が大幅に増えたんですね。多分、読み聞かせとか、保護者がやっているものを大きくカウントするようになって、27年度から結構伸びたんですね。

子供の総数も減っているんで、親の数も減っているという中では、親が参加するボランティアの活動数が減っているかなというところは読み取れるかと思います。

読み聞かせは完全に保護者プラス地元の方にもやっていただいています、あとは学校の環境整備、事業参観とともにやる草刈りとかが減っていますかね。行事もPTAのバザーとかああいうものなので、やっぱり保護者関係が若干減っている。ただ、安全指導が増えているのは、地域の見守りの方もカウントしているので、この活動はここ数年で結構伸びているので、多分そこで増えているんですね。

あと、学生がかなり減っているんですね。

○林委員長 学生ボランティアが減っているということですね。

○山下委員 ボランティアというのは、社会福祉協議会を通じて参加してもらっているものだけでもないわけですか。

○事務局 だけでもないです。学校と……。

○山下委員 学校と直接ですか。

○事務局 そうですね。ありますね。

なので、この要因は具体的に聞いてみないと何とも言えません。多分、この学習支援の事業と学生ボランティアは学校からの要請によって実施しているものなので、もしかすると学校それぞれで違う可能性があります。でも、大学生と高校生はなかなか。自分たちの授業と活動もあるので。4万4,000か。高いね。

○林委員長 高いですよね。

○事務局 高齢者が増えています。

○事務局 高齢者、安全の見守りは増えていますけど。

○事務局 そういう人たちを、地域で子供を支えるという意味では、もっと参加してもらおうよ

うに促すことは必要なのかもしれないです。

**○事務局** 保護者の母数が減るのはいたし方ないところではあると思うので。

授業は、なかなか、先生の方針と合う方を探すというところでは一番ハードルが高いボランティア活動なので、そこのところが伸びていないというところもありますかね。昔の教育方針と今の教育方針が全く違うという話も大分聞いていますので、そういうところでなかなか助けていただける方がいないというところと、あとは、定年延長といえますか、教員をおやめになってもその学校に残って非常勤とか再任用で教員を続ける方が非常に増えているので、地元に戻ってボランティアをやる方が少なくなっているというお話も聞いています。多分、そういうところも要因としては考えられますかね。そこが500で、一番マイナスで少ないので。

**○山下委員** ボランティアを増やすための市としての取り組みは何ですか。

**○事務局** 周知は、学校経由で保護者や地域にお手紙が毎年配られていますので、そういうことはやってはいるのでしょうか。

**○山下委員** いないと立ち行かない部分が仮にあったとして、そこに力を入れて、ぜひこれをやってほしいということ強く呼びかけるというようなことはやっていますか。

**○事務局** そこまですごい力を入れてというところまでは行ってないかもしれませんが。もうちょっと周知の仕方であったり方法は必要かもしれないですね。

**○山下委員** 体制の充実ということであって、困った課題があったりして、それを解決するために市としてある取り組みをやっているとか、それは広報啓発かもしれないし、そういうことをやっていて、その結果どうだったのかということが見えてくる。それが達成したか達成しなかったかというようなやり方でPDCAで回していくんですよね。支援ボランティアをうんと増やすための取り組みとしてあるのであれば、それに対して評価はあるかもしれないけど、自主的に参加したい人に任せているというスタンスだったとすれば、本来そこを評価すべきものなのかなという気はしないでもないですけど。

**○事務局** 目標に掲げている以上は、本来、やっていないのであれば何かやっつけていかなければいけないのかなと思います。そういう意味では、あまり評価はできない、評価の低い事業になってしまうのかなと。

**○山下委員** 要するに、社会的な背景を映したまま、子供が減っているから減っているとか、そういうことだけで動いているような感じがしますが、これをこれぐらいまで増やすことによって今の先生の負担を減らして、さらにこういった部分で教育を充実させていきたいと

いうふうな目標があって、そのために教育以外の部分で学校の草刈りだとか何だとかをやる人をもっと増やしたいんだということで。

○事務局 本当はそれが目的でしたから。

○山下委員 そのための働きかけの取り組みは何をやっているのだろうと。

○事務局 確かに。特に先生の働き方改革でいくと逆行している。見守りは、安全指導のほうは、学校だけではなく、うちの防犯のほうも起因して呼びかけをたくさんしているので増えているんです。なので、ここは間違いなく努力をして増えているというところではあるのですが、そのほかのところについては、力をいれているかどうか。

○坂巻委員 うちの西小のところは、最初のPTAの会議のときにチラシを配って、こういうボランティアをやりませんかと周知しています。

○事務局 他にはありますか？

○坂巻委員 あとは口コミ。やっている人から誘う。

○事務局 もうちょっと、そこら辺の工夫なのかしら。

○坂巻委員 学校ごとだから、その学校にもよるんじゃないかと思います。

○事務局 そのコーディネーターさんがいるので、その人の力に起因しているのかしら。

○事務局 まだまだ工夫の余地はあるかもしれないですね。

○事務局 特に学生と学習支援のところは、一番頑張らなきゃいけないところが減っているの。行事は必然的に行事数であったり保護者の数なので、そこはいたし方ないかなとは思いますがけれども。

あとほかに大きく一番下がっている事業が概ね500人と学生ボランティアが300人近く下がっているの、このところですね。

○山下委員 安全指導というのは、多分、社会的な要因で大きく違ってきて、リンちゃん事件もありましたよね。ああいうことで大きく変わりますよね。防犯カメラ1つ設置するのだったうんと増えましたものね。通学路とかに設置するのが。

○事務局 そうですね。

○山下委員 そういった社会的要因もいろいろあるとは思いますがけれども。

何のためにボランティアを増やしたいのかなど。何に困っているのか、何が課題で、どういう部分を担っていただきたいのかということが見えないまま、単純に増えている減っているということで、それをどう評価したらいいのかというのはわかりにくい感じがしますね。

○事務局 確かに。

- 山下委員** こういったことをやりたかったのでボランティアをこの部分で増やしたかったのだけど、それができていないというのならわかるのだけど。
- 事務局** そういう意味でいくと、本来、今一番課題になっているクラブ・部活動のところも、三角印はついていませんが、年々減っています。
- 林委員長** 微妙に少しずつ減っていますよね。
- 事務局** 確実に減っているのです、本来はここを伸ばしていかなきゃいけないというところではあると思うので。
- 山下委員** 部活のために、市の体育関係の協会とかがあって、いろいろ働きかけるやり方とか対象はあると思うけど、それに具体的に何をやっているかなという話ですよ。
- 事務局** 結構、学校の先生がつてが多いですね。あとは、部活は特に、例えば、教え子が中央学院さんの駅伝部にいるとか、そうすると、市内でも駅伝にかなり力を入れているので、そういう人たちに応援に来てもらったり。
- 山下委員** これはボランティアだから完全に無償ですか。
- 事務局** そうですね。学校のやつは無償ですね。
- 山下委員** 話がずれてしまいますけど、中学生の部活はすごく大変ということで、外部の人に有償で来てもらうということを東京都なんかで。
- 事務局** やっていますね。
- 山下委員** 一日4万円ぐらいかな。結構な費用を出してやっているんだよね。だから、本気でやっっていこうとなると、なかなか、ボランティアで全く無償となると人を増やしていくのは難しいかもしれないですね。
- 事務局** そうですね。善意だけでとなると、なかなか難しい面もあるかと思います。
- 山下委員** 交通費も見ないでしょう。
- 事務局** 見ないですね。中学校の部活であれば、父母会のほうでそういうのを補填したり、そういうことはありますけど、市として、学校として何かというところは、多分、それほどはないかもしれないですね。
- 山下委員** 子育てボランティアだと、要するに、マッチングして、ボランティアとは言いながら、時給を払ったりしているところもありますよね。
- 事務局** ありますね。
- 山下委員** ボランティアだから、本当は、お金を払っちゃっていいかという話はあるのかもしれないですけど、本来だったら市とか県とか国とかの事業としてやったっていいわけじゃ

ないですか。要するに、教育環境を整えるということで、そういった部活も必要なのであれば、それは学校の先生に任せるのではなくて、専門の知識を持っている人にちゃんと費用を払った上で事業としてやっていくということもありのはずで、ところが、今はボランティアに頼っているという状況ですよ。だとすれば、もう一步進めて、ボランティアに参加しやすい、ボランティアというスタンスは消さないまでも、せめて交通費であるとか、この程度というふうなものかもしれないけれども、時給とかそういうようなものも考えてもいいかなと。本当にその部分を伸ばしたいということであれば、そういう気がしますね。

**○事務局** そうですね。何のためにというところですね。

**○山下委員** だって、結構、スポーツの場合は、けがをさせたりすると責任問題にもなりますよね。草刈りとは違うと思うんですよ。

**○事務局** ちょっと違いますね。そういう意味でいくと、やっぱり頑張りが足りない。

**○事務局** まずは必要性ですよ。課題とか必要性。

**○事務局** 何のためにというところで、どうしたいんだというところですね。

**○山下委員** そうですね。すぐには改善できないから、何とかこの部分を補ってもらいたいんだというものがあって、そのためにどんな働きかけをしているか、どんな事業をやっているかということについて、それが結果としてうまくいっているかどうかというのは、評価として順調か順調でないかというのを判断したと思います。

**○林委員長** そういった意味で、47番は課題のある遅延だということですね。

予定の11時を若干過ぎたところではありますけれども、今のところの施策3番というところは、引き続きこのカテゴリの中はもう少し実質的に議論していく必要があるということが見えてくる遅延もあったという形になってこようかと思います。

こちらも、必ず2番になっているようですけども、2番ということで一旦つけさせていただく感じですかね。

**○事務局** 逆に、今、42と47で2つ大きな課題が出てしまったので。

**○林委員長** そうですね。42、47というところが大きいですかね。またもう少し先には、今度は市長さんと具体的に基本目標別に、「こういうことに取り組んでいただきたい」とか、「こういうところはよくできているのでさらに伸ばしてほしい」みたいな話をする場面がありますけれども、そういったあたりで42とか47がこの中では候補という形になりますかね。

**○山下委員** そうですね。

○事務局 47は今まで一回も出ていないですね。

○林委員長 ボランティアの話というのはほとんど出たことがないですね。42のところは、子供の発達もそうですけど、割と今まで出てくるところではありましたけど、ボランティアというのは出てきていないですし、先ほどおっしゃられたように、そもそものところとして、なぜ必要なのかというところもありますし、少し議論させていただけると、もしかすると新しい施策につながる展開が期待できるかもしれないですね。

先ほど、つてとおっしゃいましたけど、確かに大学のボランティアも、大学としてボランティアを推進するというボランティア推進とか社会連携推進部局みたいなものがありますけど、うちは、どちらかというところ、そういうのではないので、完全に各教員とボランティアとかNPOとの関係の中でやっていくみたいな感じです。そういう意味でも、もしかしたら、社会全体で、もう少し学生ボランティアを使う機運をつくっていくみたいなことにつながれるかもしれないですし、おもしろい議論ができるかと思しますので、42、47がこの辺では候補かなという形かと思えます。

また、有識者からの意見という欄もありますけれども、この場ということではありませんけれども、もし何かこのところで特に附帯意見としてつけたいという候補があれば、また事務局さんのほうに要請させていただければよろしいですか。

○事務局 きょうでこれが全部終わるので、うちのほうでまた案をお示しして、次回のときに、その内容でいいかどうかの確認も含めて、それが市長への提言につながっていくようなイメージでよろしいですか。

○林委員長 わかりました。

まだ基本目標4が丸々残っていますけれども、2年度延長の話もあります。どちらを先に。

○事務局 これが先で、提言の部分を次回までにまとめて、次に市長のほうにお示しをしたいので。これをやっていただければ、次の作業はそれほど。

○林委員長 では、優先順位としてはこちらということですね。

○事務局 はい。

○林委員長 では、基本目標4を引き続き今のような形でさせていただければと思います。

今度、4は15ページになりますけれども、「あびこにずっと安心して住み続けられるまちづくり」ということで、今までは子ども・子育てというところが中心でしたが、今度はまちづくり的な施策の課題に移っている形になります。

実は、ここには結構いろんなテーマが入ってしまっていて、健康づくりの話があったり生活環

境の話があったり交通の問題があったり、さらには、足元の市役所の行財政の話のほかに地域コミュニティがあるということですので、かなり多彩になっているという形になります。

まず最初に出てくるのが健康づくりへの支援ということで、健康づくりへの支援とスポーツの振興というのが出てきて、(1)の基本施策15番が「健康づくりの推進」になっています。

健康づくりの話が15ページから16ページにかけてありますけれども、数値的なところだけ追いかけていきますと、ぱっと見ですけど、15ページの49番が数字的にマイナス510ということで遅延が立っております。

また、次に行きますと、ここは遅延が多いですけども、マイナス51%が50で遅延になっているということと、高齢者なんでも相談室への相談件数が7%の遅延になっていると思います。

特にここで確認が必要なところとしては、たしか50は国のサービスの補助という話のつけ足しの話でしたか。

**○事務局** 50は、介護保険制度に移行されている方が増えているので、それを使えない方をカバーするサービスなので。

**○林委員長** どちらかという実質的サービスが受けられない人というのは、国の制度との関係で受けられない人をカバーするための市の施策ということになっているのがたしか50番だったと思います。

**○事務局** これに比例して介護保険のほうは伸びています。

**○林委員長** もし見ていくとしたら、ここでは、まず、48の遅延からですかね。政策目標が「自らの健康に気をつけている人の割合」というところで、アンケート調査を施策でどうにかできるかという部分だと、なかなか難しい指標にはなっていますね。

**○事務局** 今回、ちょっと低くなっちゃいましたね。パーセンテージなので。

**○林委員長** 93%ということで、前年度から比較すると3ポイントほど落ちてはいますね。

**○山下委員** このアンケート数はどれぐらいですか。

**○事務局** 配っている総数は出ていないですね。

**○山下委員** 数が少ないと結構変動がありますよね。

**○事務局** でも、配っている場所はほぼ一緒だと思うので。ただ、パーセンテージが。6,500人から回答を得てはいますので。

**○山下委員** それぐらいもらっているんだ。

- 事務局 ただ、おっしゃったように、多分、結構数をまいている中での1%、2%なので、結構左右はされていますね。「自ら健康に気をつけている人の割合」だものね。
- 林委員長 何か研修を受けてやっているという話ではないわけですよ。多分、イベントとかそういうもので聞いているということですよ。
- 事務局 いっぱい人が来るときを利用してそういうものを実施していて、回答していただいた方の数なので。
- 林委員長 健康づくり教室みたいなものを作って、その後に、「その後、健康に気をつけていますか」みたいな質問とは違うわけですよ。
- 事務局 みんな気をつけてよね、と。
- 事務局 自分のことですからね。気をつけようよと。
- 事務局 できていないとかじゃないから、自己申告で「していない」というところなので、だから、きっと、ここは頑張らないとなんです。
- 事務局 啓発ですね。若いうちとか健康なうちからやっておかないと大変なことになってしまう。
- 事務局 何か事業をやれば良いというものでもないのしょうけれど。
- 林委員長 だからといって、ほかの事業みたいに、がんがんやりましょうという感じでもない感じではありますよね。大事な割合ですけど。健康寿命を延ばしていこうとかそういうところにつながっていくとは思いますが。
- 事務局 一人一人の意識改革なので。「これをやらないと寝たきりになっちゃうよ」とか、「これをやらないとメタボになっちゃうよ」とか、多分そういうことだと思うので。
- 林委員長 どちらかという改善としての普及啓発みたいな感じですね。
- 49はマイナス510というすごい数字が出ていますが、これも行事の参加者数ですか。
- 事務局 これも、さっきの資料とともにつけてはいるのですが。一番大きいのは新春マラソンですね。エコマラソンは若干増えて、今回、新春マラソン、お天気はどうだったかな。
- 事務局 よかったと思います。子供の数の影響があるかもしれないです。
- 事務局 エコマラソンは、たしか、29年度はお天気がすごく悪くて参加者数がかくんと減ったんですが、そこからかなり持ち直しはしているので、例年の平均以上にはなっています。
- 若干少ないところで新春マラソン。ただ、もっと伸び率を上げていたのかな。それほど近年と大きく差はないのですが。
- 林委員長 総数そのものは29と30を比較すれば増えているんですよ。

○事務局 そうですね。なので、多分、目標値をもうちょっと上げているはずなので、そこに対しての達成率が低いんですね。だって、2万1,500だものね。

○林委員長 2万1,500人になっていますよね。基準値2万1,000に対して2万1,500になっていますものね。

○事務局 だからですね。だから、目標値と比べると少ないですね。そうすると、マラソン大会が一番大きいですかね。新春マラソンは、本来、申し込み者数が2,000人を超えているので、実際の参加者数は1,600、あとエコマラソンも1万を超えているところが9,000台となっているので、多分、1万は参加できるキャパは持っているのですが、当日の参加者数はそれほど伸びていないというところなので。

どこかとかぶったのは30年度かな。土浦かどこか大きなところのマラソン大会とかぶったのがエコマラソンじゃなかったかな。

○林委員長 そういえば去年もそういう話をしていましたよね。どこかとかぶったマラソン大会がおっしゃっていましたよね。

○事務局 時期的なもので、できる時期が限られているので、それが集中してしまうと、とりあえずは申し込みをするのですが、走りたいほうに行くという傾向があるので。あと、2週連続で走る方はなかなかいないので、同じ日ではなくても、同じ月の中だと選ばれる方は多いですね。というところでいくと、本来はマラソン関係はもうちょっと人数を伸ばしていきたいところではあるものの、そこが減っているのが大きな要因ですね。ほかのところは、それほどは。チャレンジスポーツフェスタは、昔、六百、三百だったのが、千いくつになっているものね。

○事務局 市民体育大会も結構減っていますよね。

○事務局 昔に比べると随分減っているね。ふれあいウォークとタートリンピックは平均。そこですかね。どうやったら伸びるんだろうね。

○事務局 その数字を足してもこの数字にはならない。もっと別のイベントがあったのかな。

○事務局 でも、増やしたんだよ。最初は文スポのやつだけだったけど、ほかにも手賀沼ウォークラリーとかタートリンピックとかを健康増進のためにやるというので項目を増やしているからね。

○山下委員 単純にスポーツイベントの開催回数とか種類を増やせば人は増える話になるので。

○事務局 決してそういうことではないんですけど。本来は、大きなイベントに参加してくれ

の方がもうちょっと増えるのが望んでいた数字だと思います。これも、やればよいということでもないのです。

**○山下委員** 健康づくりということは、きっと、スポーツに参加するというか、そういうことを生活に取り入れている人を増やしたいということなんですよ。

**○事務局** そうですね。

**○山下委員** トータルでいろんなスポーツイベントをやっていて、それを足していって人数がこうなっていますという話だけでも、今、話を聞いていると、かぶりがあったり不開催があったりといった場合に、当然、参加する人が別の大会に参加しちゃっていたり、参加したくても大会がないから参加できなかったという話になっちゃって、ポテンシャルとしては別にそれが減っちゃっているというわけでもないような気もするので、そこの評価の仕方はその辺を加味したほうがいいのかもかもしれません。少なくとも、大きな大会を開催していない年が減っているのは、そこの部分をどう見るか。全くそのまま減らしてしまうという形なのか、例年どおりと想定してという形でそこを見るか。

**○事務局** 規模は減らしていないものね。マラソンの規模は減らしていないので。

今度、新しい計画の中で目標値を立てるときには、お天気とかで左右されるものについては指標としては好ましくないのかなとも考えていますので、例えば、市が取り組んでいる事業数とか、そういうほうがいいのかと私自身は思っています。

**○林委員長** 実施大会数みたいなものですかね。

**○事務局** はい。アンケートで、ふだんからスポーツに親しんでいる人の数とか、施策の目的としてはそういうことなのだろうと思います。

**○林委員長** 本当はそうですものね。住み続けられるまちづくりの中の健康づくりとか地域で健康に生きていくというお話なので。

**○事務局** どうする？　すごく少なかったら。

**○事務局** 週に1回以上とかやると、すごく減っちゃうかもしれないですね。

**○林委員長** 「必ず週1回運動しますか」みたいにするとなくなりますけどね。

**○事務局** めちゃめちゃ少ないかも。「やろうとは思っている。だけど、できない」とか。

**○林委員長** 「半年以内に改善するつもりはある」と毎回書いてくるけど、改善はしていない。

**○事務局** そんな感じになっちゃうので、ここは考えたほうがよいですね。

**○林委員長** もうちょっと施策の目標と対応させる感じで。参加者数がいいのか、それとも大規模スポーツイベントを市が提供する数がいいのかというところで、機会をつくっているの

か参加者数なのかというのもあるでしょうし、もうちょっと考えてもよさそうですね。

**○事務局** そうですね。実施していることに対しての取り組みは決して下がっているわけではないので、ただ、そこに来る参加者数がたまたま減ってしまっただけだとは思いますが。

**○林委員長** 天気とかほかの大会の外部要因みたいなものでかなり影響を受けるところがありますものね。

**○事務局** 春先と秋はほかのイベントも、何せ皆この時期に重なるので、時期をずらすといっても、なかなか難しいですね。

**○山下委員** 単純にイベント数を増やしていけば増えるかもしれませんが、無責任に増やせないじゃないですか。マンパワーの問題もあるし。そうすると、スクラップ・アンド・ビルドを考えなければいけなくて、参加が減ってきているような行事については、あまりニーズがないのかな、人気がないのかなということで、市民の意見を聞くようなチャンネルを設けて、違うイベントを。そういうことは市としていろいろやれることがいっぱいあるのではないかという気がします。

そういったことも全部やられているとは思いますが、その上でのこの数字なのでしょうけれども、単純に比較できないというか、不開催のものがあったり時期があったりというのであれば、どうなのだろうという感じはします。

**○事務局** 去年、坂巻委員のほうから、毎年出ることについてのメリットみたいなものとか、ただやるだけではなく、ずっと参加してもらうための工夫が必要なのではないかというご意見もあったので、そういうところの工夫はまだまだできることがあると思います。ただやっているだけではなく、よりみんなに参加してもらえるようにというところはあるかと思えます。だからこそ、東京マラソンとかは参加者がどんどん増えているという状況もあると思うので、何かしらメリットが見出せるものがあれば。

**○林委員長** 時間の関係もあるので、もう少し先に進めさせていただいて、16ページになりますが、また施策のカテゴリーが変わりまして、「地域包括ケア・介護予防の推進」という話ともう一個は「誰もが安心できる生活環境の提供」というのが16ページに出てまいります。

数値的に見させていただきますと、ここは遅延が結構多いカテゴリーが2つ並びます。50はさっきお話があったとおりですけども、51の「高齢者なんでも相談室への相談件数」は達成率7%ということで遅延になっております。たしか、これも数字をいただいていたような気がします。

○事務局 そうですね。さっきの資料の中に入っています。

○林委員長 たしか、51と書いてあるところに。これも目標値が若干高いのですかね。

○事務局 というより、減っているのは下から2つ目の配食サービスが結構減っていると思いますが、今、民間のほうでも、お弁当の配達とか、安くて品質がいいものの提供が普及してきているので、市でやらなくても、そういうところを使っていらっしゃる方が増えているという話は聞いていますので、これを使わなくて済む方が増えたのかなというところでは、特に伸ばす目標はなくてもいいのかなというところでは、

あと、緊急通報システムも年々減っているんで、これを必要とする方がそれほどいないということであれば。これを押すと消防のほうに電話が入って、行っていただけるサービスなのですが、間違えて押しちゃったとか、そういう方も結構多いという話を聞いてるので、そういうところでいくと、今、携帯電話も普及していて、年配の方も結構持ってらっしゃるので、このシステムがなくてもそういうところと連絡をとる手段はあるのかなとは捉えられますね。

○林委員長 伸びているのは移送サービスが伸びているということですか。

○事務局 移送サービスは、総数が増えていますので、必要としている方が増えると、民間でもやってはいますが、それだけでは足りないというところで伸びていると思います。今、どこの市民の方とお話をしても、やっぱり、高齢者の足がないというところが大きな課題で出てきているので、そういう意味では、ここの事業はまだまだ伸びていくのかなというところでは、

○山下委員 軽度生活援助が随分減っていますけど、これはどんなものをするのですか。

○坂巻委員 多分、買い物とかそういうもの。

高齢者の移送サービスは、障害は障害で、介護は介護でもあるので、伸びてはいますが、どうなんですかね。どんどん事業を削っているものもあるわけですね。

○事務局 そうですね。

○坂巻委員 目標値のほうも、その事業がなくなっていれば減っているわけですね。

○事務局 一応、サービスとしては、最低限は残しています。なくすわけにはいかないということなので、一応存在はしていて、誰でも使えるようにしている状況ではあるということです。

○坂巻委員 我孫子市独自でやられているので、ほかの市町村に比べれば随分やられているほうだと思いますけど。

○**事務局** 高齢者の移送も難しい。個人個人に合ったサービスをどうやって提供していくのか。多分これから出てくると思います。バスとか出てきますね。

○**林委員長** 市民バスが56番で。

○**事務局** 欲しい欲しいと言っている地区が一番数が伸びていない。なので、皆さん、自分の都合で使いやすいものを使いたいというところがあるのでしょうか、そこがなかなか捉え切れないというところですかね。

○**林委員長** 高齢者の関係で51番がありまして、これも遅延という形になっています。その次の高齢者在宅の利用実績の次のページに相談件数の話が出てまいります。

これは総数だけで見ると1万8,953が2万189ということで、前年度実績より増えてはいますね。2万3,500という目標値に対してのこの数字であるわけですが、2万3,500というのが大きいんですかね。

○**事務局** 大きいですね。あとは、たしか前回もここのお話を市長に提言していただいた後に市長とも話をしている中では、多分、なんでも相談室に行く方は施設に入る前でしようという方が多いという中では、今、市内にかなり施設も充実してきているので、その施設に入居した人も増えているのに伴って、こっちは減ってきているのかなというところは、若干分析をするとあるかなという話がありました。ただ、そうは言っても、高齢化率は伸びているので、とうとう30%の大台に乗りました。29.9でとまっていたのに、直近でいくと30.2です。なので、少しの割合でせめぎ合いをしているのと、あとは、今年度、これから冬前にはオープンできると思いますが、我孫子地区にもう一カ所、なんでも相談室ができますので、その開設状況によって、どうかしらというところです。

ただ、地区で見えていくと、湖北、布佐、新木地区が伸びているのは、やっぱり高齢化率が上がっている地区で伸びているというところは見えますので、着実に高齢化率は進んでいると思います。

土日開室した割には、それほど伸びていないね。

○**山下委員** 高齢化は進んでいます。高齢者は増えていきますと。相談件数は増えたほうがいいのですか。

○**事務局** いや、必ずしもそうではないです。

○**山下委員** 基準値が1万9,000で、約2万で、目標値として2万3,500と挙げているのは、どういう考えで目標値をこの数字にしたのだろう。

○**事務局** この当初は、まだ相談室が全ての地区に開設されておらず、相談をする場所もまだ

まだ少ないという中では、相談できる場所があって、そこに来て相談をしていただくことがこれからの介護につながるのであろうというところで数字を伸ばしているんですね。

○**山下委員** なるほど。そうすると、基準値のときには、各地区、全地域にあったわけではなくて、それを全地域に31年度までに整備して2万3,500に持っていくよと。要するに、相談できる場所が増えれば、それだけ相談に来れる人も増えるでしょうという話ですね。

○**事務局** そうですね。

○**山下委員** 30年度の段階では各地域に全部できている。

○**事務局** あともう1カ所だけ。我孫子がちょうど駅を挟んで一番人数が多いところなのですが、南北に分かれている中で、今、北口にしかないんです。これを南につくって計画は完了です。

○**山下委員** そうすると、そこができると、要するに、31年度中にできる。

○**事務局** はい。

○**山下委員** それはいつごろ。

○**事務局** 今年度の11月から12月のオープンを目指して、今、準備を進めています。

○**山下委員** そうすると、残る数カ月分しかその部分としては見れない。

○**事務局** そうですね。

○**山下委員** なるほど。

○**事務局** 線路を渡るというハードルがかなり高く、行けない方が非常に多いというところで。

○**山下委員** なるほど。ただ、違う地域に行っても構わないでしょう。

○**事務局** そうですね。

○**山下委員** どこでも受けられるという状況がある中で。

○**事務局** ただ、先ほどの交通の手段の問題がかなり大きく出ている中では、なかなか遠くに行くということは難しいかなというところでは。

ただ、いろいろなサービスを使いたいとか、ほかの部署にもつないでほしいという方は、一番上の我孫子市高齢者なんでも相談室が市役所の中に設置されているので、こちらのほうにいらっしゃっている方が増えているのは多分そういうことであろうと思います。

— テープレコーダーの電池切れにより、以降の録音ができいないため、会議録はここま  
でとなります —